大仙市立西仙北中学校

羽ばたこう　立志の丘から

学校通信

平成２８年３月１日
No.４１

うれしい話題　二題

２月23日、２年生が修学旅行の結団式を行いましたが、その前に、１年生から大きな「てるてる坊主」のプレゼントがありました。

１年生の代表から２年生の旅行委員長に、旅行中のよい天気と全員の無事な旅を祈ったてるてる坊主が贈られました。きっと天気にも恵まれ、楽しい旅ができることと思います。こんな思いやりが交わされた朝の会でした。

もう一つのうれしい話題は、第六回刈和野大綱引きジュニア短歌大会の入賞です。

１年生の希望者が、体験学習等を踏まえ、大綱引きに対する思いを短歌にして大会に応募しました。その中から次の生徒が入賞しました。

特選　○太田叶笑
「今年はね綱引きに行けずトボトボと部屋に戻ると満点花火」
○菅原駿治
「大接戦綱引き合う上と下両チームからかけ声響く」

入選　○荒川大典
「真冬の夜さわぎつづける男の血大綱に乗ってジョーヤーサノ」
○石神玲奈
「綱引きは迫力いっぱいすごすぎるみんな一丸ぜったい勝つぞ！」
○渡邊真歩華
「人々の思いのつまった伝統だ未来につなぐ大綱引きは」
○加藤聖也
「白熱だ綱を引き合い大接戦ジョヤーサノー大声響く」
○鈴木菜々
「綱引きだみんなの思い綱にこめいっきにひきあう熱きたたかい」
○高橋満理茂
「大綱の迫力せまる引き合いに熱気と興奮高まるばかり」
○星宮貴弥
「つな引きで五日町勝ち豊作だ来年も勝ち連勝するぞ」

なお、選者の菅原恵子先生からは次のような講評をいただきました。

「のびのびと詠まれていて感動しました。ことばを大事にしています。具体的なことばで表現すると読む人の心を打ちます。短歌は、詩のように文学（文芸）の仲間ですから、表現５７５７７三十一文字も、あまりだじゃれ的なことばでなく、何かあてはまることばがないか、考えましょう。ユーモアも「ウフッ」と、ほほえましくなるように考えてみてください。ウィット（ｗｉｔ）的な。人まねでなく個性を大切に。」

菅原先生は、刈和野在住の「かりん」同人で、秋田魁新報社文芸欄の短歌選者も務められている先生です。ご指導ありがとうございました。

2年生　修学旅行　沖縄を楽しむ！

２年生が２月24日から26日まで、２泊３日で、沖縄へ修学旅行に行ってきました。

沖縄では美ら海水族館や首里城の見学、マリン体験、ひめゆりの塔などにも訪問してきました。冬の秋田から温かい沖縄への旅行で、同じ日本でも風土や文化の違いがあることを肌で感じてきたようです。この後、学習のまとめもあるようですので、生徒たちが何を感じ、何を得てきたのか、たいへん楽しみです。

23日のＰＴＡ授業参観時の結団式で期待をふく

らませた２年生は24日出発式を終え、予定どおり７時10分、零下２度の西仙北地域から予想最高気温19度の沖縄に旅立ちました。仙台空港までバス２台に分乗し、仙台空港11時55分発の飛行機で那覇に向かいました。

手荷物の積み込み確認のため、出発が遅れましたが、無事に沖縄に上陸しました。那覇到着時の気温は17度、「あっちー」と秋田訛りを那覇空港に轟かせました。飛行機に搭乗することも、荷物を預けることも初めての生徒が多く、すべてが勉強になりました。琉球文化漂う首里城公園を見学し、秋田では感じられない雰囲気の中でいきいきとした表情をしていました。その後、生徒は国際通りで班別研修に出かけました。班別研修へ向かう足取りの軽さは当日一番の軽快さでした。班別研修は集合時間に数分間に合わなかった班がありましたが、目的を果たし無事に１日目を終えました。

初日は６時間を超える移動時間の中で十分な睡眠時間を確保できたせいか、消灯時間の22時を超えてもなかなか寝付けなかった部屋もあったようです。生徒たちは、朝食バイキングで、燃料補給をして元気いっぱいに２日目がスタートしました。宿舎からの１時間の道中は、沖縄の歴史的背景や自然環境の移り変わりをバスガイドさんに教えていただきました。沖縄県の北部にある国内最大級の水族館である「美ら海水族館」では多様な生物が見られ、生徒たちの視線は水槽に釘付けです。ジンベイザメが目の前を通過する「黒潮の海」は圧巻でした。

バスガイドさんによると沖縄では今が一番寒い時期だそうです。私たちとってはあたたかい海風が吹く中、マリン体験と琉球ガラス体験を行いました。琉球ガラス体験では息の吹き加減に悪戦苦闘したようですが、その分思い入れのあるＭＹ琉球ガラスができあがったようです。マリン体験ではシュノーケルを使って、サンゴや海中の生物を観察しました。私たちが見たことのない海の中の世界を堪能でき、心が洗われるような神秘的な時間を過ごすことができました。

修学旅行３日目、サンゴ畑を見学し、ひめゆりの塔へ向かいました。１日目と２日目は「楽しむ修学旅行」でしたが、３日目は「考える修学旅行」となりました。どんなことを考えたか、各ご家庭で話題にしていただければと思います。

某国のミサイル発射事件やインフルエンザという見えない障がいがあった旅行前ですが、心に残る修学旅行になりました。保護者、関係者の皆様、ありがとうございました。

第22回　北東北子どもの詩大賞　入賞

またまたうれしいニュースが入りました。

「第２２回　北東北子どもの詩大賞」コンクールに応募していた２年生田村萌々花さんの作品が、見事入賞しました。おめでとうございます。これは北秋田市で行われているコンクールです。中学生は大賞１編、入賞６編ですが、田村さん以外は全て岩手県の中学生の入賞でした。

秋田大学名誉教授の佐々木久春先生が審査員長として、コンクールの「総評」において、田村さんの作品について、次のように書いておりました。

「入賞には六作品を選んだ。中学生は問題意識が強い。（略）この学校（岩手県）の詩作のレベルは高い。入賞で奮闘した秋田勢一人の詩は繊細で美しかった。」

「夏の夕刻」　　２年　田村萌々花

夕刻　一人　丘の上
目の前の太陽は空を残し帰って行く
待ってくれと言った訳ではないが
空に残された紅が何とも寂しげだ
明日から夏休み　開ける頃には
この時間でも空と太陽は一緒だろう

でも　長いとはいえ　いつか別れる
いくら仲がよくても　別れはくる

今日の友達は、明日も友達なのか

空が太陽を追って　紅を薄める

一緒に帰ろうと私を呼ぶ友達
友達が呼んでいる、私も帰ろう